

一身二生、書道人生にチャレンジ 日展（書）に10回入選して！

29期 竹本治男（大鶴）

2023年10月23日、第10回日本美術展覧会（日展）第5科・書の入選発表があり入選のご報告をいただきました。

思えば1999年（平成11年3月）52歳でIDEC（株）を早期希望退職してから好きなこと・自分にできること・人に喜んでもらえることをやろうと一念発起し書道人生にチャレンジしてきました。早や24年…76歳をむかえ後期高齢者となりました。

青春時代、落選、落選の連続で「日展に入選することが夢」から64歳で初入選してからは「日展に入選することを目標」と切り替え、切磋琢磨してきました。

入選の連絡を受け11月3日から東京六本木の国立新美術館で開催された日展を鑑賞してきました。第1科 日本画・第2科 洋画・第3科 彫刻・第4科 工芸美術・第5科 書 と各出品者が1年間、精魂込め仕上げた作品を発表する最高の展覧会です。

一身二生（いっしんにしてにしょう）…意味はひとつの身で二つの生涯を生きる

ある先生から、「日展入選おめでとう。夢をあきらめずチャレンジを持ち続けられた貴君に敬意を表します。人間だれしも夢をあきらめずに、チャレンジ精神を持ち続けることが大切であることを実証された証です。おめでとう！」と褒めていただきました。

ほめていただくと大変嬉しく頑張る要素になっています。

現在、5歳から97歳までの人を教えています。教えることは教えられることでもあり、書道が私の人生を大きく色どってくれました。

「積み重ね、積み重ねても、また積み重ね」の言葉のように努力し精進して参ります。

2023年（令和5年）11月5日 記



開会式（テープカット）



第3科 彫刻会場

(題名)

送李萬安罷官歸里 李万安が官を罷めて里に帰るを送る (清・施閏章)

歳暮歸舟一葉輕 歳暮歸舟一葉輕く

歌残酒罷涙雙傾 歌残し酒罷て涙雙つながら傾く

灘聲不是無情想 灘聲是無情の想いならず

嗚咽隨君為送行 嗚咽君に隨つて為に行を送る

(語意)

年の暮れ、李万安の故郷に帰る舟は舟脚も軽く発つて行った。つい先ほどまで送別の宴を催していたが、今は舟を見送りながら涙ぐんでいる。流れの水音さえも心なしか、むせび泣いて、君が帰郷するのを送っているかのようにである。

受賞作品の内容説明



筆者と受賞作品 (右)



第1科 日本画会場



第2科 洋画会場



第4科 工芸美術会場



第5科 書会場